



金田 永哲 さん

人気マッサージ師から経営者へ。様々な苦勞を厭わず、むしろ楽しみながらまずやってみる！という挑戦の日々が前進を生み、人を惹きつける輝きとなっています。

リアグループ WEB SITE



認めあえる仲間がいてくれるのが小牧

「約25年前に韓国から日本に来てマッサージ師としてキャリアをスタートさせました」と話してくれたのは株式会社リアの金田社長。現在はB型就労継続支援施設、グループホームを運営しています。かつては外国人だということも差別的な扱いもされたということも話してくれましたが、現在の周りには素晴らしい小牧の友達がたくさんいるといいます。目まぐるしく法律改正がある福祉事業について、情報共有を目的に同業者達が自然と集まり、そこではどんな些細なことも恥ずかしがらずに質問し教えあえるような力

アルな雰囲気生まれ、互いの支えあいの場と、そして憩いのひとときになっているそうです。元々日本語がほとんど話せなかった金田さんは人知れず努力しました。言葉の壁も他人からの視線も乗り越えることができた源には「まずやってみよう」という金田さんの挑戦の姿勢がありました。その振る舞いは彼を認めてくれる仲間を増やし、職場でも職場外でも仲良く人の集まるその中心者となっています。「まずやる」という行動が身近な人を動かしていくのを感じました。

生命力溢れる韓国人経営者

指定難病と向き合うガラス作家



大河内 愛美 さん

国指定の難病「神経線維腫症I型(レックリングハウゼン病)」と向き合いながら、ガラス作家として活躍。自身と真剣に向き合う中で美しいガラス作品が生み出されています。



誰かのキッカケに…自身の姿で訴えていく

小学生の頃からガラス作家に憧れを持ち、一心不乱にガラス作家への道を突き進んできたという大河内愛美さんは、SNSにご自身の人生の分岐点を見出した女性の1人。今年の「Beauty Japan」中部NEO大会でグランプリに輝き、11月には日本大会へ挑戦しています。キッカケは憧れの有名人がSNSでの大河内さんの投稿に「いいね！」をくれたことからその方との交流が始まり、自身の作品を届けるまでに至ったことでした。それが自分自身

を発信することで何かが生まれるという体験となり、ご自身の抱える国指定の難病「神経線維腫症I型(レックリングハウゼン病)」について、同じように悩んだり心無い言葉で傷付けられている人を少しでも支えられたらとの想いから、SNSやブログでの積極的な発信を続け、大会への出場にも繋がりました。この先の自身の活躍が地域社会を変えていくきっかけとなるように、また同じ病気や周囲に理解されず悩んでいる方にとって励みとなるように、これからも発信を続けていきたいと話してくれました。



巻頭 特集 Diversity & Inclusion

豊富な多様性が光る 素敵な小牧

ダイバーシティ社会と地域で輝く人々

あらゆる人にとって暮らしやすく、より良い社会の構築を目指すSDGsが多くの方に注目されています。その根幹には「誰1人取り残さない」という多様性を大切にしている理念があります。これは私たち一人ひとりから

決して手の届かない話ではなく、身近な地域においても大切にする必要のある価値観ではないでしょうか。今回はダイバーシティ社会を構成する一人として小牧市内で輝きを放つ4人の方にお話を伺いました!



小嶋 小百合 さん

LGBTQの方達への居場所作りや障がい者支援など、あらゆる人が自分らしく輝ける社会の形成に貢献。その明るい人柄は多くの人に希望を与えています。



話ができる場所がある。それだけでも大きなこと

中高年専門パソコン教室「びいそふ」を営む小嶋さん。マイペースに楽しくパソコンが覚えられるということで、シニアの方達から好評を博しています。小嶋さんは、性別を女性へと変更したトランスジェンダーの1人です。テレビドラマ「3年B組金八先生」にて性自認のテーマを描いたシリーズは良い意味で大きな反響を呼びましたが、今でもカミングアウトをすれば就職が困難になることも多く、トイレや更衣室など社会環境には様々な課題があります。家族や学校のみならず、行政のサポート、また私たち一人ひとりの理解も欠かせ

ません。小嶋さんは自ら複数の団体を作り、LGBTQの方の拠り所を用意しています。当事者があるいまの自分でいられる環境があるというところが、大きな精神的な支えとなる事を知っている彼女だからこそ出来る活動です。また小嶋さんはあらゆる人が暮らしやすい社会を願い、視覚障害のある方に向けての支援活動なども行っています。このような活動が地域に理解の輪を広げ、多様な豊かな社会へと繋がる一助となっています。



居場所をつくるトランスジェンダー

パソコン教室びいそふさんの詳細はP14をご覧ください!!

優しい笑顔を生み出すイラストレーター



nachi さん

社会との距離を感じ自信を失う中で、ずっと続けてきた大好きな絵を描くこと。そのことが自身の大きな力となり、イラストレーターとして今では多くの人に笑顔をお届けしています。



似顔絵が教えてくれた、自分を支えてくれる人たち

小牧を拠点に活動するイラストレーターのnachiさん。22歳で母親となり、育児に追われる日々は彼女を社会から遠ざけていきました。孤独を感じ自分の存在についても自信が持てなくなってしまう頃、友人のふとしたひとことから似顔絵を描き始めました。このことが彼女の人生を好転させることになりました。点と線の優しいタッチの似顔絵が徐々に話題となり、遠く離れた家族や会えなくなつた大切な人を一緒に描く彼女の作品は多くの人に笑顔と感動をお届けしています。実はこの評判が孤独を感じていたnachiさん自身を勇気づける

ものだったと言います。そのような経験から、今では彼女と同じような立場の母親の良き相談相手ともなっているようです。nachiさんプロデュースのコインランドリー「LAUNDRY HOUSE HARE」では、黒板にご自身の手書きのメッセージとイラストが描かれており、来店者を笑顔にしてくれます。温かく支えるようなメッセージ性のあるイラストは、見る人を励ます優しさに溢れています。そんな彼女の作品を探してみませんか。

